

26. 寛文事件の「寛文」の正しい読み方

問 寛文事件の「寛文」の正しい読み方は、「かんもん」か、それとも「かんぶん」か。
(1)

答 「年号読方考証稿」(山田孝雄)によると、「寛文」の正しい読み方は、15の読み方実例をあげて「かんぶん」⁽²⁾であることを示しています。

注(1) 後西・靈元天皇の時代の元号、寛文元年4月25日から寛文13年9月21日まで〔1661～1673〕。俗に伊達騒動といわれる事件は寛文11年に起ったので、寛文事件〔当時は寛文一件〕と称せられる。

なお、元号に「文」の文字のつくものは次のとおりであるが、「文」はすべて「ぶん」と読むのが正しいとされる。文治・文暦・文応・文永・文保・文中・北朝の文和・延文・文安・文正・文明・文亀・天文・文禄・寛文・元文・文化・文政・文久。

注(2) わが国の年号は孝徳天皇の「大化」〔645〕に始まるが、複数音をもつ漢字を用いているため所定の読方が不明で、専門家でさえ正しく読み得ないものが多い。これを明確にすることが、史学上の基礎であるとして、明治30年頃から昭和20年まで実に40年の努力を傾注して完成したもので、年号読み方に関しては最も信頼度の高い著作である。この書は年号考証のため、古文書の上で仮名書きしてあるものを中心とし、その他の文献の中で仮名で傍書したものや仮名書きのもの、慶長元和頃及び幕末頃の外交文書のうちローマ字で書いた年号、ケムペル「日本史」ほか外人の著書にある年号の発音等を採取校較、あらゆる既存の年号読方の研究書をも渉猟し尽している。

なお、「大正」以後の年号は内閣告示により国家がその読み方を明示することになったので、将来の年号については問題はない。

資料 年号読方考証稿(山田孝雄)
国史名称読例(稲垣千穎)
年号索引(「国語学辞典」(国語学会編)の内)

27. 「縦ノ木は残った」の「縦ノ木」の表記の可否

問 「縦ノ木は残った」は「縦の木は残った」と書き表わすべきではないか。